

早稲田大学社会安全政策研究所における渡邊巧氏の足跡

早稲田大学社会安全政策研究所所長

石川 正興

平成 26 (2014) 年 4 月 24 日に、本研究所招聘研究員・渡邊巧氏が享年 62 歳にて逝去されました。

渡邊氏は、平成 18 (2006) 年 10 月の本研究所の発足と同時に警察庁から派遣され、早稲田大学社会安全政策研究所客員教授に嘱任されました。

研究所では「少年非行の防止」や「犯罪の国際化」をテーマとした研究に精力的に取り組まれる一方で、平成 19 (2007) 年 4 月からは法学部設置の「犯罪学」、大学院法学研究科設置の「刑事政策特殊研究Ⅰ」、大学院法務研究科設置の「犯罪学」の講座も担当されました。また、本研究所設立一周年を記念して開催されたシンポジウムでは、渡邊氏は「杉並区における少年非行に対応する機関・団体のネットワーク」というテーマを発案・企画され、当日のシンポジウムでは司会も務められました。

平成 21 (2009) 年 4 月に渡邊氏は神奈川県警察本部長に就任されましたが、本研究所客員教授の職を辞する 3 月までに、本研究所での 2 年半にわたる研究や講義の成果として、早稲田大学社会安全政策研究所紀要第 1 号に「住民ボランティア及び外国人に関する地域研究」という論文を発表されたほか、『犯罪学入門』（成文堂）という教科書を上梓されました。

渡邊氏は神奈川県警察本部長就任後も私どもの研究所の発展にご尽力され、平成 21 (2009) 年 10 月には神奈川県警察本部・神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会を事務局とする「地域連携研究会」を立ち上げられ、研究会委員長として私が、また委員として石堂研究所員・小西研究所員の 2 氏が任命されることになりました。

早稲田大学社会安全政策研究所では、同年 9 月から「子どもを犯罪から守るための多機関連携モデルの提唱」という研究プロジェクト（独立行政法人科学技

術振興機構の委託研究)に着手しておりました関係上、この「地域連携研究会」への参加は大いに役立ち、翌年からは本研究プロジェクトの対象地域として横浜市を加えることができました。これもひとえに渡邊氏のご協力の賜物であると考え、深く感謝いたしております。

渡邊氏は平成 24 (2012) 年 1 月に警察庁をご退職されましたが、私どもの研究所では直ちに渡邊氏を本研究所招聘研究員にお招きすることにいたしました。

その後、渡邊氏は警察政策学会と連携を図られ、平成 25 (2013) 年 4 月には「国際都市新宿治安研究会」を立ち上げられました。当研究会では私が会長を務めさせていただいておりますが、今日に至るまで新宿区の防犯ボランティアの方々や、新宿警察署を始めとする警視庁の方々とともに、研究を続けております。

最後に、渡邊氏は、同年 9 月に開催された第 36 回定例研究会において、「国際テロの非対称性と総合的諸対策の推進」と題する報告を行われました。これは、神奈川県警察本部長時に神奈川県で開催された A P E C の警備責任者としてご体験された事柄などに基づく貴重な報告でありました。

渡邊氏は本研究所に必要な不可欠な研究者であり、多くの功績を残されました。ここに謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。— 合掌 —